

Barcelos

について



バルセロス

カヴァド川 (Rio Cavado) にかかる古い橋を渡ると、そこは人気の高いミーニョ (Minho) アートを象徴する有名な都市の1つ、バルセロス (Barcelos) です。

このあたりは先史時代の考古遺跡が残る地域ですが、バルセロス自体の歴史は12世紀、アフォンソ・エンリケス王 (D. Afonso Henriques) が住民に設立勅許状を与えて村落を町としたときに始まります。その後1298年、ディニス王 (D. Dinis) が自分の侍従長を伯爵に取り立て、その権利の一部としてこの町を与えました。

1385年には、コンデスターヴェル・ヌノ・アルヴァレス・ペレイラ (Condestável Nuno Álvares Pereira) が第7代バルセロス伯爵となりましたが、彼は娘のベアトリス姫 (D. Beatriz) とジョアン1世 (D. João I) の庶子、アフォンソ王子 (D. Afonso) が結婚するとき、この町を持参金として与えます。その後の一時期、バルセロスは大きく発展して力強い成長を遂げ、橋や町の城壁が造られました。その名残は今でも、トーレ・ダ・ポルタ・ノヴァ (Torre da Porta Nova)、パソ・ドス・ドゥケス (Paço dos Duques)、教区教会 (Igreja Matriz) に見ることができます。

これらは今も町の中心的な歴史的建造物で、領主館や、ソラール・ドス・ピニョーレス (Solar dos Pinheiros) のような歴史的な邸宅が、中世の快い雰囲気をつたえて散在しています。

バルセロスの散策で見どころは、現在はカンポス・ダ・レプブリカ (Campo da República) として知られる、古い催事会場です。ここには18世紀のボン・ジェズ・ダ・クルス教会 (Igreja do Bom Jesus da Cruz) やノッサ・セニョーラ・ド・テルソ教会 (Igreja da Nossa Senhora do Terço) 教会があるほか、ポルトガル最大の手工芸品フェアが毎週木曜日に開かれています。

そのフェアに行けないという方にぜひお薦めしたいのが、陶磁器博物館 (Museu da Olaria) とバルセロス手工芸品センター (Centro de Artesanato de Barcelos) です。ここではミーニョ・アートや手工芸品の数々を見ることができます。バルセロスで作られているものの中で一番代表的なのは、明るい色のバルセロスの鶏でしょう。そのほか、ブラバンドやこの地域の習慣や風習を描いた人形もお忘れなく。